

# 最近の学生の書く英語

鶴田 知佳子

国際語である英語は Englishes と複数でいうくらい、世界にいろいろな英語がある、またあって良い、とする意見がある。確かに英語と一口にいても、オーストラリア英語、インド英語、シンガポール英語(通称 Singlish)など、旧大英帝国圏の国に英語が広まって土着した結果、いろいろな英語がある。

日本にもさまざまな英語あるいは英語もどきがある。日本語自体、外来語の影響を受けてわけの分らない言葉が蔓延している。その一つが最近テレビ・コマーシャルで聞いた「チョベリバ」。小学生の娘が教えてくれたところによると、超ベリー・バッド、すなわち「たいへんすごく悪い」という意味だという。ホワイト・キック、すなわち「白ける」というのもあるそうだが、これは私の学生時代からあったように思う。あと他に最近聞いたもので一瞬意味をはかりかねたのが、「バック転」と「腰パン」。バック転はバック、すなわち後ろ向きに宙返りができることだそうで、女子中高生のアイドルになるには「必修」の芸だそうである。腰パンはこれも若者に人気のスタイルで、腰骨にひっかけてパンツ(そういえば最近ズボンとはいわない)をはいてるファッションだそうだ。

言葉は生き物でその時の使い方によって変遷していくのは当然で、すぐにすたれるもの、時代を越えて残るものは自然の淘汰にまかせてよいと思うが、こういう日本語と英語の合成語はどのくらい今後残っていくのであろうか。こんなことを考えるのは、学生のスピーチを添削していて、日本語の発想から考えた英語、日本語という共通知識がある日本人または外国人のあいだでしか通じないであろう和製英語がけっこう、煩雑に登場するからである。まったくの直訳や、あるいはナルホドと感心?する抱腹絶倒ものもある。以下にあげるような例をみせたところ、英語教師をしているアメリカ人の友人は、quite enter-

taining であると、よろこんでいた。

最も、英語教師として指導する立場からは面白いと単純に喜んでばかりもいられない。さらに一步進んで、こういう例から何か共通の法則、文法のようなものはないかをみつけだせればと思っているが、まだそこまで至っていない。以下で述べるのは、去年の夏に添削した学生のスピーチの中から気づいた例の抜粋で、どうしてそういう英語になったか、私なりの推論をつけ加え、このように書き直したらという私の助言をしている。

## 1. 日本語の発想から書いているため、意味のわからない英語

### (1) エイズについての対策を書いたスピーチからの三例

The AIDS problem all over the world has produced a variety of different ideas. For example, there are three side ideas: patients, not patients people, people who try to improve this condition.

おそらく次のように言いたいのだろう。

エイズ問題は世界中で多くの違った観点から論じられるようになった。例えば、患者、患者でない普通の人々、それといまの状況を改善しようと努力している人たちの観点である。

さらにすこし間を於いて、次のようにエイズ患者は考えがちだと続けている。They sometimes regret their bodies are not healthy, some patients tend to take it to heart, and even think they swallow up ordinary people. They may hit on such an idea because of suffering.

言いたいのはこういう内容だろう。

彼らは自分たちが健康でないとしばしば思い悩む。患者たちのなかには自分のせいで、一般の人たちをまきこみ迷惑をかけていると考えがちな人もある。病の苦しみからこんなふう思うのであろう。

### 最近の学生(チョベリバ世代)の書く英語

日本語を解する私でもかなり解釈するのに時間がかかったので、外国人であったら多分理解不能であろう。いろいろな問題が混在しているが、出てくる順に指摘する。

#### A) 「、、、が生まれた」という言い方

produced を使ってそういう意味を出したつもりで書いているのだろう。英語はこういう「、、、になった」的な言い方よりも、「、、、がある」とする方が普通の英語の構文のためにわかりにくくなっている。

#### B) ものの見方、という意味に idea をあてている

idea という単語にそういう意味がないわけではないが、このコンテキストでそう使うには無理がある。

#### C) side ideas の意味が不明

こういう見方もあると言いたいのだろうが、英語ではふつう、そう表現しない。

#### D) tend to take it to heart

自分のせいにすると言いたいのだろうが、この場合あまりしっくりしていない。

#### E) they swallow up ordinary people

いちばん理解に苦しんだのがこの部分で、このままだと「ふつうの人たちを飲み込む」の意味にしかない。

以上を総合して、私の書き直しの例をあげる。

There are various ways of looking at the AIDS problem in the world. How one would look at this problem, depends partly on who is considering it: For example, patients, the general public, or those who are trying to help

the patients.

Patients resent that their bodies are not healthy. Some patients even blame themselves, and feel that they are inflicting their despair on general public. They feel this way because they suffer a great deal from this disease.

この学生はスピーチの最後をこう締めくくっている。さらにいくつか、理解不能な点がある。

The AIDS exploration in Japan is like freehand, so we Japanese need to learn it from Europe and America. In addition to it, we must build AIDS measures that become samples all over the world.

次のようにいいたいのであろう。

日本のエイズ研究はまるで手探りの状態なので、日本はヨーロッパやアメリカから多くを学ばねばならない。さらに、日本は世界中に範を示すようなエイズ対策を打ち出す必要がある。

単語の問題であるが、exploration, freehand, samples という不適切な単語を選択している。逆に日本語に「直訳」してみると言いたいことが分るが、ここは次のようにあらためるべきであろう。

The AIDS research in Japan is at a very preliminary stage, so we have a lot to learn from Europe and the United States. But I feel that in the future, we should be able to develop measures to deal with AIDS so that we can set an example to the world..

辞書に頼りすぎは考えものだが、辞書の引き方が身につけていないように思う。和英辞典を引いて最初に出てきた単語を使っても、意味がうまく伝わらない。

最近の学生(チョベリバ世代)の書く英語

(2) 間違いやすい単語

次に、一人のみならず、数人が使った問題単語をあげ、一以下に私の訂正例をあげる。

A) 「生み出す」

Today, I want to tell you about what oversea's travel produce.

—Today, I want to tell you about what you can gain by travelling overseas.

さきほども出てきた produce であるが、generate と変えてみても、あまり英語らしくならない。行為者を「学ぶ側の人間」という文にする必要がある。この you need という一般的な you は英語で良く使われるが、逆に日本語にするのに、いちいち「あなた」とされるのが耳ざわりな単語である。

B) 「暗い」

I realized that the image of Japanese culture is very dark.

—I realized that the Japanese culture has a somber image associated with it.

一時「ネクラ」という言葉が流行った。dark には英語だと悪 evil のニュアンスがあるが、日本語でいう「暗い」にはそれがない。

C) 「考え」

Today, an idea of money is changing.

—Today, the perception of money is changing.

これも先ほどみたとおりであるが、「考え」というとすぐ idea を使いがちなようである。

最近の学生(チョベリバ世代)の書く英語

D) 街の中で「あそぶ」

To be sure, we have to pay more than ten thousand yen immediately only to play in the city.

—Indeed, we would need to pay more than 10,000 yen right away, if we want to go out and have some fun in town.

play と英語でいうときは普通、子どもが遊ぶときに使うのであって、5-6才くらい、少なくとも小学校以上の子には使わない。日本語、英語での言葉の守備範囲の違いである。

E) 「ふつうの」考え

It is dangerous not to get ordinary idea of money.

—It is dangerous not to have common sense about how to spend money.

あるいは

—It is dangerous not to be able to spend money sensibly (reasonably).

さきほどの idea がまた出ているが、「フツウの」と一時流行語になった言葉を自然な英語にするのは難物である。

F) 眼を「養う」

Once in a while, we must watch sports games actually and bring up eyes it can be understood and enjoy games ourselves.

—Once in a while, we should go and watch sport live, so that we can fully appreciate it.

このほか、養う、眼を肥やすの意味で、cultivate を使った例もあった。英語でそう使えなくもないが、一般的ではないだろう。

最近の学生(チョベリバ世代)の書く英語

G) 「度合いを増す」

Recently, juvenile delinquency is increasing by degree.

—Recently, juvenile delinquency is increasing rapidly.

まさしく「直訳」の例である。この例は英字新聞でも見掛けたことがある。こういう日本語がすけて見える英語がマスコミで登場することもあるが、英語国民ならまずこういう言い方はしない。

H) 「社会勉強」

This part time job become social study.

—This part time job gives me a chance to learn about the real world.

これもかなりの人数が使っていた「直訳」英語である。「社会」にしても「勉強」にしても単語レベルの対応が日・英で違うためにこうなっている。

I) 職業意識、性差別意識

Next is problem of consciousness to job. I think that conscious of sex distinction part division of labor is deep also. It is a long way to equality.

—Next is the problem of determination on the job. I think that sexual discrimination is still based deeply on the concept of division of labor between the sexes, and there is still a long way to equality.

conscious とは英語でも確かにこういう意味の「意識」になる場合もあるが、ふつうは「意識がある」「意識を失う」というふうに頭を働かせられる状態にあるかないかをさしている。職業意識、性差別意識というコンテキストだと、こんなふうに言いかえないと意味がはっきり伝わらない。

## 2. 和製英語

カタカナ書きとして日本語化しているダイエット、ノルマ、アニメーション、バトンクラブ等をそのまま英語の単語を探してあてはめた例である。

### A) ダイエット

女子学生に人気のダイエット、ほぼ例外なくとっていいくらい、diet とそのまま使っているのが、これだと食餌療法の意味になっている。

I want to tell you about diet.

—I want to tell you about my experience of being on a diet.

### B) ノルマ

「勤勉」日本人に「ノルマ」はすっかり日本語化しているが、norm とすると意味が違ってしまふ。

When I have a lot of norm and I don't have enough time, I have to cut them off.

—But when I have a big work load, I cannot deal with it all.

### C) アニメーション

日本のアニメは“manga”として海外で大人気のようにあるが、animation とは本来動かすという意味しかない。

Do you remember that we watched animation characters who put on a watch combined mean of communication in childhood?

—Do you remember that TV cartoon character we used to watch in our childhood, who wore a watch with a communication device?

### D) バトンクラブ

カッコいい「バトンガール」は女子学生のおこがれの的だが、baton はただ、振り回す棒の意味しかない。



最近の学生(チョベリバ世代)の書く英語

I met good teacher and good many friends, I made a fortune in this baton club.

—I had a good coach and made many good friends. I was very fortunate that I took part in this Baton Twirling Club in high school.

これはバトンという和製英語以外、さらに good many の語順が違うためにたくさんの良い、という意味でなく本当にたくさん、の意味になってしまったこと、make a fortune といったために、運がよかったの意味でなく、お金持ちになったという意味に期せずしてなった例である。ちょっとした違いでがらりと意味が違う。

以上の考察は私にとっても amusing な経験であったが、こうい Japanese English も、広まっていけば、Englishes の一つとしていずれは市民権を得るのだろうか？ごく一部には、英語の辞書に載ることになったもと「和製英語」もあるがそれは例外であって、全体的にいえば日本製の英語の大量進出は難しいだろう。いずれ稿をあらためてこのテーマについても論じてみたいと思っている。